

◆お父さんお母さん 五体満足に生んでくれてありがとう

私の一日は毎朝仏壇にお供えをして手をあわせる事からはじまります。

現在私は事情があつて娘と孫、主人の4人暮らしをしております。

家族の問題や仕事の問題が山積しておりストレスやイライラがたまると必ず仏壇に手をあわせる事でおちつける気がするのです。先日あるテレビを見てみると「親に感謝する事と親孝行する事が幸せになれる基本だ」という事を言っておりました。

しかし：残念ながら私の親は他界してもうこの世にはおりません。どうしたら親孝行出来るのだろうか？そのテレビでは仏壇に手を合わせて…

「お父さんお母さん五体満足に生んでくださつてありがとう。育ててくださつてありがとう」と心の中で念じるだけでもそれは無くなつた親御さんへの孝行なのだとおぼえておりました。

そこで、それを毎朝実践してみることになりました。それを行うようになったある日、孫が…

「おばあちゃん何をぶつぶつ言つてるの？」と尋ねてきました。

私は「うん。おばあちゃんの前にお礼を言つてるんだよ。おばあちゃんの前はもう亡くなつてから直接孝行出来ないからこうやつてお祈りしてるんだよ。お前もお母さんやお父さんを大事にしないとね。」と説明してあげました。孫はだまつてうなずいておりました。

それから数日たつて…孫の行動に変化が現れました。率先して家事のお手伝いをしてくれるのです。

私は嬉しくて、甘いかなとは思いつつも食事で色をつけお小遣いとして孫に渡すと、本当に嬉しそうに「おばあちゃんありがとう」つ



て言ってくれます。その瞬間がとてもうれしく、いとおしく感じます。そんな孫を生んでくれた娘に「ありがとう」。そしてあたらめて我々家族が居る事に感謝して…両親に「ありがとう」 (世田谷区/K・Oさん)

●レスキューカーの仕事に就けて… ありがとう

私は今レスキューレッカーの仕事をしていています。故障や事故を起こした車を救



助して…故障の原因を究明し、牽引して保険会社の指定する修理工場まで輸送するのが主な仕事です。

この仕事につくまでは大手の自動車会社の修理工場や部品等のメーカーで仕事をしていました。

その頃の私の仕事はお客さんの苦情を聞き改善したり、クレーム処理をするのが日常業務で私は対人の仕事には苦手意識がありました。

しかし、私は今の仕事に生き甲斐を感じています。毎日が楽しくてしようがありません。

大半のお客様はトラブル直後なので、私が到着した



時点で皆さん不安で皆さん表情が暗いものです。しかし問題を解決し車を移送する車中、そしてお別れの瞬間、「ありがとうございました」と会話を交わす際みなさんすばらしい笑顔になられます。

人に笑顔が与えられる今の仕事に私は誇りをもっています。自分もいつも笑顔で居られるようになりました。

今の仕事にありがとう…。(株)プレミア 整備士 川本倫明)

●メガネ拭きの活用法を 教えていただきありがとう

今日は…知人の会計事務所の親睦会に招かれて講演会と懇親会の参加させていただきましたことになりました。

講演は…サブプライム問題と中小企業への影響について主催事務所の先生と外資系証券会社の顧問の方から身近に迫っている具体的な事例などの情報をいただきました。つと情報をお願いすることができました。

第二部は懇親会でした。同じテーブルに着いた方と名刺交換をし名刺と一緒に「メガネ拭き」をお渡ししました。

いつものように…その方もしばらくメガネ拭きの文を読んでおられました。が…「ありがとう」の言葉を一つ一つ確認してよかったです。そして…

「これはいい…これはいいですね…」とおっしゃって、早速、ご自分のメガネを拭き始めました。

拭いて綺麗になったメガネを掛けながら…「すごい！気持ちまで明るくなった…」と大きな声を出して喜んで下さり…

周りの人に聞こえるように…「ありがとう」の文を声を出して読みあげはじめました。メガネを掛けている近くを通った知人を呼び止め…

「ちよつとメガネを貸して下さい…」と

云つて、その方のメガネを拭いてお返ししながら「ねっ…！…明るくなったでしょ！これ、とっても良いんですよ…」と、それをキツカケにして私たちをご紹介して下さいました。

これを持っていると「逢った人のメガネを拭きたくなっちゃいますね…」と、私たちが考えていた以上に喜んでいただいたのにはかえって恐縮してしまいました。

たかが…「メガネ拭き」、されで…「メガネ拭き」ということを実感。思わぬハブニングです。

「メガネ拭き」の活用法を目の当たりに教えていただきました。慌てて名刺交換をさせていただけると、長身でもとても爽やかなその方は、いまは社会問題となつてアスベストを撤去工事をする会社の社長さんでした。

ほんの些細なプレゼントに対して、これほどまでに感動してくださった上に、見知らぬ人との縁のつくり方まで教えていただきました。

すばらしいヒントをいただき、本当にありがとうございました。(ありがとう・不動産 豊田泰幸)



ムラサキツユクサが咲いています。そろそろ梅雨明けの日が近づいてきたようで、朝露に濡れた素朴な花がとても美しい…。

●皇居前の警備の警察官の方々
そしてレッカー屋さんありがとう!



先日いつものように愛車に
乗り：仕事に出かけた時の事
です。
その日は朝のエンジン始動
の時に：わずかででしたが回転
部から異音を感じられた、「工
場」に持ち込み確認してもら
うかな」と悩んだのですが当日の予定
が詰まっていた為に「まあ、週末に行
けばいいや」と
そのまま都心に向かいました。

ところが、大手町から皇居にさしかかっ
たその時です。電気系統がすべてダウン
してしまいエンジンの回転音がおかし
く鳴りだし：エンジンが停止しました。
周りを見回してみたら：渋谷や新宿方
面に向かう車で渋滞しています。私も渋
谷方面に行こうとその中央の車線に移動
した時でした。
止まったエンジンには、いくら再起動さ
せようと私のも動きません。車外に出
てみると：私の車の後ろには：びっしり渋
滞がはじまってしまい後ろの車を脇に
誘導しました。

ただただ焦って頭を下げてあやまりな
がら大声で：「故障です。申し訳ありま
せん。」一生懸命あやまりながら車を左
右の車線に誘導します。
通過する車からは：心配そうに案じて
下さる方もいるもの：睨みつけたり：
罵声を浴びせたりする方もいました。必
死に頭を下げてつづけました。

携帯電話で助けを求めようと携帯をみ
ますが、なんと：携帯電話でもが：パッ
と切れてしまった。電源が落ちて
しまいました。
「俺はついてない。携帯まで切れた。
なんでこんな思いをするんだ。」と惨め
に思う気持ちを感じながらも：とにかく
必死に誘導し続けました。
申し訳なくて：、恥ずかしくて：、逃
げ出したいた気持ちの中、渋滞はどんど
んどくなくなってきました。
そのとき、道の反対車線の向こう側の

皇居から：皇居警備の警察官の方が近寄っ
てきて「故障か？どうし
た？」と声をかけて下さい
ました。
「故障です。エンジンが
切れてしまいました。迷惑かけています
ごめんなさい。」と大声で伝えました。
数分後に：無線で連絡を取ってくれた
のでしようか：仲間の方々を連れてその
警察官の方がもどつてきてくれました。
お仲間が手際よく交通整理をしてくだ
さり、残りの方が車を押し下さり、観
光バス用の車寄せまで移動していただき
ました。その後すぐに警察官の方々はご
自分の持ち場に戻ってしまいました。
さて、携帯電話で保険会社と、訪問予
定のお客様に連絡しなければ：
「そうだった：電池切れなんだった。」
目の前に公衆電話があるものの、連絡先
の電話番号はすべて携帯に保存されてい
たんだって！。「俺はなんて馬鹿なんだ
：ついでない：。」とぶつぶつ考えながら
携帯電話用の充電器を買おうと周辺をさ
がしますが、そこは平日の皇居前広場：
人影はまばら：、結果、東京駅近くまで
歩き、ようやく充電器を調達することが
できました。



知人の助言で保険会社のレッカーを呼
びました。1時間後、レッカーの運転手
さんが来てくださり、故障の箇所もわか
り愛車を牽引して修理工場に移動する車
中、警察官の皆さん、そして、レッカー
の運転手さん、ありがとうございました。
：「ホッとした気持ちで心底、人との
係わりに感謝した一日でした。「ありが
とう」って声に出して言ってみたら「俺
はついてない。なんでこんな思いをする
んだ。」っていう気持ちがどんどん消え
て行くのを感じました。
残ったのは：とても爽やかなハッピー
グ・ストーリーでした。
(渋谷区広尾/M・Tさん)

●患者さんの作ってくださったおからに：
そして、勤務している病院にありがとう

私は生活習慣病専門のクリニックで外
来のコンシエールジュとして働いておりま

す。
子育てに、仕事に、と慌ただしく毎日が
過ぎて行きます。夫の仕事は自営業なの
で収入が安定していない事も多ことなど
で、日常に何かとストレスを感じる毎
日を送っております。
外来コンシエールジュという仕事は、患
者様を第一に考え、医師・看護師・事務
との連携を円滑につなぐパイプ役のよう
な仕事です。
そのほかにも、従業員から人間関係の
相談や私的な相談までこなすクリニック
の目安箱兼何でも屋として重宝がられて
います。
しかし、ときおりクリニックの経営者
や自分の夫に対して不平不満を感じると
きもあります。
クリニックによく来られる初老の女性の
患者様がいらつしやいます。その方は現
在、義理のご両親の介護をされているよ
うです。やはり多忙で悩みも多い方のよ
うです。
でも：その方はいつも明るく：私が担
当の日を選んでクリニックに来てくださ
います。来られる都度ご自分で作られた
「おから」を持ってきてくださいます。
「あなたの笑顔を見ると元気がでるわ！
いつもありがとう」と言いつつ、その
「おから」を下さるのです。
私は家に帰り、主人や子供達と食卓を
囲み、その「おから」をいただきます。
夫も「おいしいね」と、ほおぼって
食べています。
夫は、私が多忙な時に
は夕食の支度や後片付け
をしてくれるのです。私
は夫が作ってくれた料理
と患者さんからいただいた
「おから」を食べながら
「おいしいわ」と、あ
なた ありがとう！と
言いつついつも美味しくい
ただいています。
心遣いをしてくださる
患者様にありがとう。そして：すてきな
患者様との出会いを作ってくれた病院に
「ありがとう」と心からお礼を言ってい
ます。
(横浜市戸塚区/主婦・Y・T)



本誌は北海道から
沖繩までの友人知人
から寄せていただき
た「ありがとう」の
ことばに因んだ思
い出を、作文、詩、俳
句、短歌、写真、絵
画などを掲載します。
作品は編集部まで
お送りください。投
稿いただいた方に
は、ささやかではご
りジナル「ありがとうマガネ拭き」
をプレゼントさせ
させていただきます。
皆様からのご投稿
お待ちしております。
また、ご自分のお
名前や事業所名を
刷り込んで、身近
な方やお客様へ配
布されてはいかが
う。編集への意見
ご提案がございま
是非お聞かせくだ
さい。



●携帯電話の方はQRコードから→→
●パソコンの方は下記のURLから↓
<http://1039.seesaa.net/>
●メールでのご投稿は…
info@holonics.gr.jp
【編集・企画】株式会社ホロニクス総研・編集部

